

そば春まき栽培 「春のいぶき」栽培指針

平成27年7月
豊後高田そば生産組合

月旬	2月			3月			4月			5月			6月																										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																								
生育ステージ				3/20~			~4/15			開花期から30日で収穫			播種後65日																										
				播種			出芽			開花			収穫																										
				出芽始め			出芽期			出芽揃い			開花始め			開花期			開花最盛期			黒化始め			黒化率1割			黒化率3割			黒化率5割			黒化率7割			黒化成熟期		
主な管理作業	ほ場の準備 <排水対策> ・排水の良いほ場を選ぶ ・縁排水溝の設置やサブソイラー施工による排水性の改善 <土づくり> 堆肥: 肥効向上と微量元素補給 石灰窒素: 雑草対策として使用 苦土石灰: pH6.0になるように使用			播種 <播種量> ・播種量は10a当たり5~6kg 晩霜を考慮し、播種期を設定する <播種期> 海岸部: 3/20~3/31 平野部: 3/27~4/5 中山間部: 4/1~4/10			中耕 ・条播では、開花期前までに除草や培土や排水対策を兼ねて管理機等で2回以上中耕する 中耕1回目: 発芽後、草丈が10cm頃 中耕2回目: 草丈が20cm頃 中耕3回目: 草丈が30cm頃			収穫 乾燥 調製 ・収穫適期は、主茎頂花房の黒化率が5割~7割のときを目安とする。 ・黒化率は1日7%ずつ増加。																													
													栽培の重要管理点	1 ほ場の準備 ・そばは湿害に弱いので、排水の良いほ場を選定し、排水対策を徹底する。 ・雑草害や病虫害を避けるため、連作を避ける。 ・牛糞堆肥を10aあたり1~2トン施用し、砕土・整地を行う。	2 種子の準備 ・品種名が明らかで、無病の種子を使用する。 ・秋そば用品種は春まきに適さない。	3 肥料 ・土壌分析に基づいて肥料基準を作成する。 ・窒素だけでなく、リン酸加里が同量以上の肥料を選ぶ。	4 播種 ・播種方法 表層散播: アップカットロータリで、畝立てして播種する。 条播: 中耕を行うために、畦幅38cmを目安に播種する。 ・播種量 散播: 6kg/10a 条播: 5kg/10a	5 収穫 ・収穫時期は、主茎頂花房の黒化率の程度で判断する。 ・成熟期は、主茎頂花房の黒化率が70%程度の時である。 ・収穫は、主茎頂花房黒化率50%から可能なので、雨等で刈遅れないように行う。 ・黒化率50%から80%には、3日程度で進む。 秋まきに比べて黒化が早いので注意する。	6 乾燥・調製 ・遠赤外線式乾燥機等で、水分15%まで乾燥させる。乾燥時の温度が30℃以上になると、そばの品質が低下するので、低い温度で徐々に乾燥させる。 ・とうみ選、石抜き、磨き等によって、茎葉屑、未熟粒、土砂などを除去する。																				